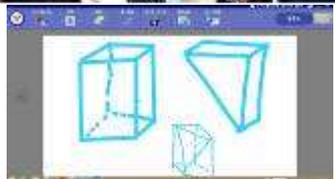


平成30年度

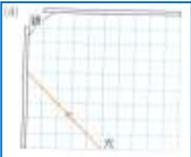
**I C Tの教育活用を推進する実践研究
指導事例集**

北九州市立高見中学校

①枝種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 2年	教科等 国語	単元名 「字のない葉書」・「魅力的な提案をしよう」
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input type="checkbox"/> 同時進行型 <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	「字のない葉書」を通して学んだことをみんなに紹介しよう。			
④本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に出てくる言葉や絵など、自分たちが気になったものについて、図書館の本やインターネットで検索して調べた内容をオクリンクでまとめ、テレビを使ってクラスのみみんなに紹介できるようにする。 ・情報を収集・整理する中で、図書館の本とインターネット検索それぞれの良さを捉え、適切に活用できるようにする。 			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使うことで、図書館の本で調べた内容を写真に取り込んだり、インターネットで検索した内容を保存したりして、調べ学習を効率よく行うことができる。 ・調べた内容をオクリンクで整理し、テレビ画面に表示して発表することで、模造紙等で発表するより手間が省け、より発表原稿に力点を置いて取り組むことができる。 ・テレビに映すことで、写真や資料などが見やすく表示され、分かりやすい発表をすることができる。 			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等
導入 10	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに、前時までに調べて整理した内容を、タブレットのオクリンクを開いて班員で確認する。(5分) ・発表順を決め、発表の流れを確認する。(3分) ・発表を聞く際の注意事項と、教科書P30「要点を整理して聞き取る」を参考にしながらメモの取り方について確認し、ワークシートを配布する。(2分) 		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットパソコン(先生機、生徒機6人班につき1台) ・オクリンク ・ワークシート 	
展開 35	<ul style="list-style-type: none"> ・発表順にテレビの前にタブレットを持って並び、オクリンクを開いて、テレビモニターに自分たちが発表する内容を写し出し、その画面を見ながら自分たちが調べた内容を紹介する。(一班につき5分程度) ・発表を聞く側は、ワークシートを利用して聞いた内容をメモし、評価をしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットパソコン ・オクリンク ・デジタルテレビ ・ワークシート 	
まとめ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の発表を振り返り、ワークシートに整理していく。(4分) ・図書館とパソコンによる情報収集機能について、それぞれの良さを伝え、発表会を実践した意義を確認する。(1分) 		<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 	
⑦活動の様子 (画像添付)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>↑発表内容をオクリンクを使って確認</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>↑テレビモニターとタブレットを使って発表</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>↑聞いた内容をワークシートで整理</p> </div> </div>			
⑧児童生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが興味ある内容を調べることで、積極的に参加できていた。 ○情報収集において、図書館とインターネット検索のそれぞれの利点を見つけ、うまくまとめようとしていた。 ○オクリンクの活用は、他の教科でも積極的に行っており、スムーズに発表できていた。 			
⑨実践の手応え	<ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習の発表は、模造紙に内容を書くなど、発表までに時間がかかっていたが、オクリンクで情報を整理し、タブレットを使ってテレビ画面上で発表することで、時間短縮と発表内容をわかりやすくまとめることができたので良かった。 ○図書館の本は、調べたいことまでたどり着くのに時間がかかる一方、見つけたときは分かりやすくかつ整理されたものが多くあった。また、インターネット検索は調べたいことに関連する内容が一瞬で見つけられるが、難しい言葉で理解するのに手間取って情報をまとめるのに時間がかかっていた。子ども達がそれぞれの良さを理解し、上手に活用することができたのは良かったと思う。 			

①枝種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 1年	教科等 数学	単元名 空間図形
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input checked="" type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	立体を2つの方向から見た影の形から、その立体の形をとらえよう。			
④本時のねらい	立体を真正面と真上の2つの方向から見た影の形から立体をとらえる。立体感のあるタブレットPCの映像を活用することで、イメージしやすくすることをねらいとする。			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	・タブレットPCは班（4人）で1台用意する。少人数で1台を使用するため、班員全員が話し合いを行い、思考を深めることができる。 ・各班の解答を一斉にTV画面に提示することで、全員の考えを共有することができ、さらにテンポよく授業を展開することができる。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等
導入	10	1. 立体をこれまで学習してきた見取図や展開図以外で立体をとらえることを知る。 2. TV画面に映し出された三角柱にライトをあて、背後にできる影について考える。 3. 本時のめあてを確認する。		教師用タブレットPC デジタルTV ワークシート 学習探検ナビ
展開	30	4. TV画面に映し出された真正面からライトをあてた影と真上からライトをあてた影の2つの図から、どんな立体を表しているか班で話し合う。 5. 立体の名前や見取図などを生徒用のタブレットPCのオクリンクを使って記入、一斉提示により考えを共有する。 6. 投影図における立面図、平面図のかきかたを学習し、練習問題を解く。		教師用タブレットPC 生徒用タブレットPC デジタルTV ワークシート 学習探検ナビ ミライシード（オクリンク）
まとめ	10	7. 本時のまとめをする。 8. 2方向からの図に加え、3方向からの影の図形をもとに立体をとらえる問題に挑戦する。3方向から見ることで、立体をより正確にとらえることができたり、複雑な形をした立体をとらえたりすることができることを知る。		教師用タブレットPC デジタルTV ワークシート ミライシード（オクリンク）
⑦活動の様子 (画像添付)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>・各班の意見を一斉提示により共有する。 ・TV画面に映し出された三角柱にライトをあて、その影の様子を立体的に見る。</p> <div style="text-align: right;">  </div>			
⑧児童生徒の反応	○TVやタブレットを使うことで授業の始まりから興味を示し、画面に映し出された映像における教師の発問にもすぐに答えるなど、直感的にとらえている様子が見られた。 ○立体の名前をかくだけでなく、見取図で表現している班の画面をみることで、次第に見取図に挑戦する班が増えるなど、考えを共有することで学習の高まりが見られた。 ○振り返りで、「タブレットを使うことで分かりやすかった」「みんなの考えが一度に分かるので考える範囲が広がられた」と答えている生徒が多く、興味をもって学習に取り組み、理解を深めることができていた。			
⑨実践の手応え	○TV画面に映し出された映像は立体的で分かりやすく、また、見せたい映像を生徒の思考のタイミングに合わせてピンポイントで提示することができるため、発言の多い活発な授業になった。また、立体的映像のため、イメージしやすく豊かな発想ができ、最初の段階の基本的な問題から、複雑な立体を想像することができる生徒も数名いた。画面を通して全体で共有することで、スムーズに発展問題につながり、理解を深めることができた。			

①校種・学年 教科等・単元名	□小学校 ■中学校	学年 2年	教科等 社会科	単元名 江戸時代前期の文化と学問
②授業スタイル	□教師説明型 □児童生徒実践型 ■同時進行型 □児童生徒発表型 □児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	上方を中心に発展した元禄文化の特色を理解しよう。 タブレットPCを授業で使用することで、個々の興味関心に応じた掘り下げができ、生徒一人一人の元禄文化に対する理解がより深まる。			
④本時のねらい	産業や交通が発達し社会が安定する中、上方を中心に町人文化が形成、発展したことや江戸時代の生活文化が、現在にも影響を与えていることに気付かせる。 当時の作品や町人の生活をICT機器を使い、意欲的に調べることで、元禄文化の特色を捉えさせる。			
主に活用した ICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	タブレットPCを使い、興味関心のある元禄文化の作品の数々を見たり読んだり、作品の細部を拡大するなど、効率的に資料を調べることができる。タブレットPCを使うことで、より生徒一人一人の興味関心に応じた学習活動が期待できる。スカイメニューを使用することで、生徒の興味や探究心に瞬時に対応した教師の説明や支援ができるため、理解が深まる授業となる。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT機器・教材・コンテンツ等	
	導入 7	1. 江戸時代に作られた風神雷神図を見る。 2. 本時のねらい「元禄文化の特徴を知ろう」を確認する。	デジタルテレビ 教師用タブレットPC	
	展開 30	3. 江戸時代前期の元禄文化の概要を知る。作者や作品などが板書されたものをノートに記録する。 4. 元禄文化の作品の数々について、タブレットPCを使い、深く調べ学習をする。 5. 当時の人々の生活と関連づけて、調べた内容を整理する。	教師用タブレットPC 生徒用タブレットPC (13台: 班に2~3台) スカイメニュー	
	まとめ 13	6. 元禄文化の様々な作品についてICT機器を使って確認する。伝統文化として現在まで守られているものがあることを知る。 7. まとめと振り返り	デジタルテレビ 教師用タブレットPC スカイメニュー	
⑦活動の様子 (画像添付)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>協力してタブレットPCを操作している場面</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>タブレットPCで資料を拡大して見ている生徒</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>スカイメニューを使い、各班の状況を確認している場面</p> </div> </div>			
⑧児童生徒の反応	<p>○タブレットPCの操作に慣れている生徒が多く、スムーズに授業を進めていた。</p> <p>○班に2~3台のタブレットPCをわたして、調べ学習をすすめるため、協力し合って、フォルダに入っている資料を次々と開き、拡大し細部を表示するなど各班で異なる視点で調べていた。</p> <p>○スカイメニューを使用することで、生徒の興味関心や現在調べている内容が大型テレビで、瞬時にわかるため、他グループの興味関心や調べ学習の状況を知ることができ、生徒一人一人の元禄文化の特色に対する思考の深まりや関心意欲の高まりにつながった。</p>			
⑨実践の手応え	<p>○タブレットPCを活用することで効果的な授業展開ができ、理解が深まった。</p> <p>○教師用PCを用い、生徒が使用しているタブレットPCをすべてテレビ画面に写し出すことができ、生徒の興味関心に対応した補足説明ができ、思考の共有化が図られ、授業のねらいが達成できた。</p> <p>○タブレットPCを少人数の2~3人に1台とすることで、対話的主体的な学びを一時間の授業の中に取り入れられた。</p>			

①校種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 1年	教科等 理科	単元名 2枚の鏡でできる像	
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input checked="" type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型				
③実践タイトル	理科教育におけるICTを活用した「わかる授業」の創造 ～生徒同士が主体的・協働的な学習を通して理解を深める指導法を探って～				
④本時のねらい	光の性質の学習を活かして、2枚の鏡にできる像のでき方についてタブレットを用いて調べることで、光の進み方の理解を深める。				
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	○オクリンクを使用することで、撮影して画像から鏡にできた像がどのようにしてできたのか思考し、対話の中で理解が深まる。 ○オクリンクのカード配布の機能を利用することで、光の性質の復習をその場で行うなど、思考の材料となるものを示すことで、自分たちで考えて活動に取り組む。				
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等	
導入		0 10	1 パワーポイントを見ながら光の性質の復習。 2 2枚の鏡に映る像を見て、1枚の鏡に映る像との違いを確認しめあてを提示する。		・パワーポイント ・テレビ
展開		10 40	3 2枚の鏡をセットし、カメラ機能を用いて撮影を行い、データの収集をする。 4 得られたデータから、光の道筋がどうなるか、タブレットを活用し話し合い活動を行う。(考えがまとまるように、ヒントカードを配布) 5 考えをまとめたスライドを班毎に全体発表を行う。		・タブレット(オクリンク) 教師機：1台 生徒機：班に1台  ←ヒントカード
まとめ		40 50	6 生徒のまとめたスライドをもとに、本時のまとめを行う。		・タブレット(オクリンク) 教師機：1台 ・テレビ
⑦活動の様子 (画像添付)					
⑧児童生徒の反応	○従来の作図で説明する方法よりも、画像として取り込んだデータに直接線や補足の書き込みを行いその現象を説明させることで、より生徒の興味関心を引くことができた。 ○普段話し合い活動に積極的でない生徒も、1つのタブレットを見ながら思考することで意見を言うことができていたように感じた。 ○「写真の入ったスライドを使って発表したり聞いたりすることで、さまざまな考え方や意見があることが分かった。」 ○「プリントだけではなく、班で1つのタブレットの画像を見ながら話し合うことで意見が出しやすかった。」				
⑨実践の手応え	○理科教育において、タブレットなどのICT機器の活用は、観察実験を行う際にデータを収集する上で有用であると考えられる。今回の実験のようにある物理現象を観察する場合は、1度得られた結果をもう一度確認することが難しいことがある。しかし、このようなICT機器を活用することで、もう一度確認することができるようになり、他の班の生徒へ発表を通して情報の共有を図るにも便利である。これにより、少ない実験回数で多くの結果を得ることができると思う。 ○今回の実践を通して、ある物理現象に対して班で話し合い活動に取り組み、その結果を写真、イラストを組み込んだスライドを活用し発表することは、多様な見方考え方の共有を図ることができ、生徒のより深い思考につながることを実感することができた。				

①枝種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 2年	教科等 英語	単元名 Let's Read 2 “Try to be the Only One”
②授業スタイル	<input checked="" type="checkbox"/> 教師説明型 <input type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	物語を読み主人公の考えを理解し、自分の考えを共有する。			
④本時のねらい	教材の学習を通して学んだことを基に主人公のモットーが意味するものを考える。			
⑤主に活用した ICT機器・教材・ コンテンツ等のね らい	ペアで主人公のモットー(“Try to be the only one, not just number one”)が意味することを考え、ムーブノートを使ってクラスで意見を共有した。 他者の意見をリアルタイムで見ることができることは、ヒント集となり思考を促す資料となる。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ 導入 展開 まとめ	主な学習活動と内容 0 10 帯活動 進出単語の確認と繰り返し練習 30 教科書 p98 の内容を確認、読み合わせ (文法事項の解説・内容の読み取り) 【ペア】主人公の考えるモットーはどのようなことを 意味しているのかを読み取り、ペアで話し合いまと める。 まとめた内容はムーブノートの付箋に記入し広場 に提出する。 10 ムーブノートに貼り付けられた内容を全体で確認 し、まとめる。 (次時の自分のモットーを考えるにつなげる)	ICT機器・教材・コンテンツ等 デジタルテレビ フラッシュカード デジタル教科書 タブレットPC デジタルテレビ デジタル教科書 ムーブノート タブレットPC デジタルテレビ ムーブノート	
⑦活動の様子 (画像添付)				
⑧児童生徒の反応	○ペアで考えをまとめるにあたって他のペアの考えが見えるとそれをヒントにするペアもいたが、影響されてしまうペアもいた。 ○すべてのペアの考えを見ることができるので自分たちとは異なる意見に「なるほど」と納得していた生徒もいた。 ○拍手の機能を使って他者の意見に賛同することで、意欲的に他者の意見を読み共感することができていたようだ。			
⑨実践の手応え	○他教科でのタブレットの使用によって、扱いに慣れており、ムーブノートの起動が早かった。ツールの一つとして気軽に使用できた。 ○タブレットを中心に授業を組み立てるのではなく授業の一部でタブレットを活用することで、授業の流れを変えることなく、必要な情報を素早く共有する事ができた。			

①枝種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 1年	教科等 音楽	題材名 仲間とともに表情豊かに合唱しよう
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input type="checkbox"/> 同時進行型 <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	曲想や歌詞の内容をもとに歌い方の工夫をしよう。			
④本時のねらい	楽曲の構成やリズム、強弱等が生み出す曲想を感じ取り、個人・グループ相互で歌詞の内容が伝わるようにふさわしい表現を考える活動を通して、歌い方を工夫できるようにする。タブレット上にある楽譜に工夫の根拠を書き示し学級で共有することで、思いや意図をもった歌い方ができるようにする。			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	○ 歌詞の内容や曲想の変化を手がかりに、それぞれのグループでタブレット上の楽譜に歌い方の工夫とその根拠を書き込ませ、思いや意図をもった歌い方の工夫ができるようにする。 ○ 各グループが考えた工夫をテレビのスクリーンに写して学級全体で共有し、工夫を深めながら、それが伝わるように歌わせる。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、合唱する。 本時のめあてを確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> タブレット テレビスクリーン
展開	40	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに個人の考えを書く。 グループに分かれてタブレットを使用しながら、歌い方について意見交流をし、まとめる。 グループで話し合った内容を学級全体で共有する。 学級全体で共有した歌い方の工夫を大切にしながら、それが伝わるように歌わせる。 		<ul style="list-style-type: none"> タブレット テレビスクリーン ミライシード（オクリンク）
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> 歌い方の工夫をすることで表現が広がり、歌詞に込められた思いが伝わる合唱に変化したことに気付かせ、次時の学習につなげられるようにする。 		
⑦活動の様子 (画像添付)				
⑧児童生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> 他教科の授業においてもタブレットを活用しており、とてもスムーズに操作していた。 個人で紙媒体のワークシートをもとに歌い方の工夫を考え、自分の意見を持ちながらグループで意見交流しタブレットにまとめたことで、考えや工夫をさらに深めることができていた。 楽譜を拡大・縮小しながら小節単位で書き込め、まとめやすかった。 グループでタブレットにまとめた内容を即座にスクリーンに投影することで、学級全体での交流がスムーズに行われ、その後の合唱に生かされていた。 「ここは盛り上がるように」と山のような線をメモしたり、「ささやくように」と優しい色使いをしたりと班ごとに工夫、歌いながら楽譜に記入していた。 			
⑨実践の手応え	<ul style="list-style-type: none"> グループで考えた工夫をテレビのスクリーンに投影することで、すぐに学級で共有することができ、また、歌い試したり、実践したりするときにもフィードバックして意識しながら歌うことができとても有効な手立てとなった。 タブレットを使用する際の授業規律を徹底することで、「書く・話し合う・聞く」がスムーズに行われ、特に学級全体での共有は時間短縮につながった。 			

①枝種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 1年	教科等 美術	単元名 オリジナルテクニックを紹介するポスターをつくろう
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input checked="" type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	オリジナルテクニックを紹介するポスターをWordで制作しよう			
④本時のねらい	<p>○Wordを使用して技法を紹介するポスターを制作する中で、Wordの基本的な使い方や、図形の組み合わせの工夫、紹介文とのバランスなどを考えさせたい。</p> <p>○自身の考えたテクニックをポスターという新たな作品に仕上げることで達成感を得られるようにしたい。</p>			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	<input type="checkbox"/> タブレット <input type="checkbox"/> カメラ（タブレットのもの） <input type="checkbox"/> Word			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ 導入 展開 まとめ	主な学習活動と内容 10 カメラを使用して自分の作品を撮影し、Wordに出力する。 Wordにて文章の入力の仕方や図形の入れ方を確認する。 30 画像を挿入し、図形や文字を使って、自分が作成したオリジナル技法の紹介ポスターをデザインする。 (ポイント:色、バランス、内容、工夫) デザインの途中 10 制作したポスターを印刷し、提出する。 数点をピックアップし、全体に対して工夫が表現されている良い事例紹介)	ICT機器・教材・コンテンツ等 カメラ タブレット Word Word コピー機 実物投影機	
⑦活動の様子 (画像添付)				
⑧児童生徒の反応	<p>○カメラを使用して、作品を撮影するときに角度や作品の写り方をこだわる生徒が多く、作品を美しく撮影しようとしていた。</p> <p>○Wordを使用した生徒がほとんどおらず、Wordで文章を打つことが初めてでかなり時間を要した。</p> <p>○図形の使用や作品を挿入の仕方にこだわるなど、自分のこだわりをもって制作する生徒が多かった。</p> <p>○パソコンを使用してポスターをつくるのが無かったようで、興味・関心をとってもっていて意欲的だった。</p>			
⑨実践の手応え	<p>○パソコンを使ったデザインは絵の具を使用するときなどとは違い、技能面ではなく、純粋なデザインの工夫やバランスを見て配置する力を見ることが出来る。</p> <p>○Wordは社会人になって使用することも多いため、使い方に慣れることが必要だと感じた。</p>			

①校種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 2年	教科等 家庭科	単元名 わたしたちの食生活
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input checked="" type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	よりよい食生活を目指して、食糧自給率を上げるためにできることを考えよう。			
④本時のねらい	前時までに、食生活を取り巻く問題に関する資料やニュース、新聞記事等で食品の安全性に関する問題にはどのようなものがあるか考えまとめてきた。そこで本時は、日本と世界の食料自給率について比較し、日本の食生活の課題を話し合う。日本の食料自給率が低くなった理由、今後続けばどのような問題が起きるかを個人で考え、班で意見交流を行う。その際、タブレットを班で1台使用し、まとめた意見をムーブノートのみんなの広場にリアルタイムに提示することで思考を深めていきたい。次に、食料自給率を上げるための方法を考え、同じように発表し合う。最後に、これからの食生活で自分や家族ができることを個人で考え、ワークシートに自分の宣言文としてまとめる。			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	・タブレットを活用することで、関連する事項について調べたり、資料を自在に拡大・縮小したりすることができる。 ・各班の意見をムーブノートでリアルタイムにTV画面に提示することで、各班の考えを共有し深めることができる。また、意見を集約する際に、共通したキーワードを検索することで、共通点などをまとめたり比較したりするなど、様々な機能を使用してまとめることができる。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等
導入	10	1. これまで学習してきた食に関する学習と食生活を取り巻く問題などを関連させて考えさせる。 2. 本日のめあてを確認する		タブレットPC デジタルテレビ
展開	30	3. 課題である食料自給率の資料を全タブレットPCへ配布する。 4. ムーブノートで配布された広場に、班で考えた意見をどんどん投稿していく。 5. 拍手マーク順に並べ替え、考えを確認。キーワードを検索しどのような言葉がたくさん使われていたのかを確認。		タブレットPC (ムーブノート) デジタルテレビ 学習プリント
まとめ	10	6. 出てきた意見を整理し、食料自給率が低くなった理由や問題点、今後どのようにしていけば良いかを発表し合い、意見をまとめる。 7. 最後に、これからの食生活で自分や家族ができることを個人で考え、ワークシートに自分の宣言文として書き発表する。		タブレットPC デジタルテレビ 学習プリント
⑦活動の様子 (画像添付)	○リアルタイムで共有している広場に生徒の意見がどんどん挙がっているのを確認できるので、それらを参考にして各班の考えを積極的に出すことができるようになっていった。			
⑧児童生徒の反応	○同じキーワードに色がついて、同じ意見の人がいることがわかり、同じ意見でも自分の言葉で表現しようとする意欲的に取り組んでいた。 ○自分の意見を付箋で書いた場合は、グループ内では目で見て意見を共有できるが、他の班の友達の意見はまとめの際にも詳しく見ることはできない。タブレットPCを使うことによって、リアルタイムで多くの友達の意見を共有でき、生徒は自信をもって学習することができた。			
⑨実践の手応え	○タブレットPCを話し合い活動のツールとして活用することで、個人や全体の考えを共有したり、深めたりすることが容易にでき、解決に要する時間も早くなるのが期待できるため、効率的な問題解決学習を展開し、解決困難な問題も解決できるようになった。			

①校種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 1年	教科等 保健体育	単元名 武道「柔道」
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input checked="" type="checkbox"/> 同時進行型 <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	柔道においてICTを活用し「わかる・できる授業」の創造 ～生徒同士が主体的・協働的な学習を通して理解を深める指導法を探って～			
④本時のねらい	対人技能(固め技)の基本を把握し、効率よく相手を抑えられるポイントを見つけることができるようにする。			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	○視覚的にとらえることによってより効果的に理解をすることができる。 ○動画を通して、自身や仲間の課題を掴もうと思考し、理解が深まる。気づいたポイントをわかりやすく伝えることができる。 ○参考動画を見て自身との比較ができ、グループ内で指摘、思考する中でより明確にポイントを理解することができる。			
⑥本時の展開(主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT機器・教材・コンテンツ等	
導入 10	10	1、集合・挨拶 2、準備運動・補強運動・受け身の練習 3、本時の学習のめあての確認		
展開 30	30	1、袷固めの方法及び逃げ方を知る。 2、撮影した動画をグループで振り返り、良い点や課題を見つける。 3、撮影した動画で参考になるグループの動画を全体に提示し、理解を深める。 4、袷固めで抑えた状態から簡易試合を行う。	○タブレット ○テレビ ○スカイメニュー	
まとめ 10	10	1、整理体操を行う。 2、本時のまとめ、振り返り 3、次回の説明		
⑦活動の様子(画像添付)				
⑧児童生徒の反応	○自身の動きや、仲間の動きがすぐに確認できることから、自他の課題が明確となり、話し合い活動、教え合い活動の場面においては、活発に意見交換が行われ思考が深まった。 ○視覚的に確認がとれ、課題が明確となるため修正がスムーズに行われた。 ○他教科でも活用が進んでいるため、使用方法はスムーズに進んだ。 ○全体で共有することでグループでの活動が円滑に進んだ。			
⑨実践の手応え	○保健体育科の教科性を考えるとICT機器は大いに活用できると考える。生徒も視覚的に理解を深めることができ、動きなどをイメージしやすく活動が活発になる。同時に生徒同士での教え合いも盛んに行われた。また、漠然と映像分析をさせるのではなく、観る視点を生徒全員に共有させることでより効果的なものになると確信している。今年度は、柔道のみならず他種目(陸上競技「リレー」、器械運動「マット運動」)においてもICT機器を活用した。どの単元、種目においても効果的であった。今後もICT機器を使用するための授業ではなく、1つのツールとして考え、生徒にとって「解る、できる授業」のために有効に活用していきたいらと考えている。			

